

ホテル評論家 瀧澤信秋の「イケてる」レジャーホテル探訪

ラグジュアリーホテルからビジネスホテル、カプセルホテル、そしてレジャーホテルと、さまざまな宿泊空間を利用者の視点から「体感」するホテル評論家・瀧澤信秋氏。同氏が実際に利用者として体感した最新のレジャーホテルの「感動」空間、「イチ押し」サービスをレポートする。



ホテル評論家
瀧澤 信秋氏

PROFILE

日本で数少ない宿泊者・利用者目線のホテル評論家として、テレビやラジオへの出演、雑誌・新聞連載など、多方面で活躍。著書に「365日365ホテル上」(マガジンハウス)、「ホテルに騙されるな! プロが教える絶対失敗しない選び方」(光文社新書)、「ホテル評論家が自腹で泊まる! 最強のホテル100」(イースト・プレス)、「辛口評論家、星野リゾートへ泊まってみた」(光文社新書)など <https://sites.google.com/view/hoteltakizawa/>

レクー沖縄北谷スパ & リゾート (沖縄県北谷町)

レジャーホテルの要素と リゾートホテルゲストの快適性 — 選択肢の具現 —

本連載はレジャーホテル業界誌である本誌への掲載で、多くはレジャーホテルにフォーカスした内容である。一方でこれまでの連載では、際立つレジャーホテルと一般ホテルのボーダレス化という観点から、一般ホテルにおいてレジャーホテルが参考になるあるいはレジャーホテルを参考にした要素に着目した一般ホテルも取り上げてきた。

他方、レジャーホテル業界誌への一般ホテル掲載は異例中の異例。イメージの

問題やステークホルダーへの気遣いという点から基本的にはNGというホテルは多い。ゆえにレジャーホテルではない一般ホテルが本連載へ掲載されるのは、筆者と長きに渡り信頼関係を築いてきたホテルという点もあるが、固定観念にとられない極めて柔軟なゲスト目線に秀でたホテルであり運営会社ともいえる。

さて、前回の連載では6月開業、8月ブランドオープンしたレジャーホテルから一般ホテルへのコンバージョンという福

岡のケースを紹介したが、筆者がアドバイザーとして監修を担当したホテルでもあった。2回にわたり一般ホテルの掲載となり、また監修という点では手前味噌続きで恐縮であるが、8月に誕生、監修を担当した沖縄のリゾートホテルを紹介したい。

こちらはホテル全体ではなく客室ブラッシュアップの監修となった。2020年開業の「レクー沖縄北谷スパ&リゾート」で、那覇空港から車で40分、沖縄本島の西海岸のアメリカナ街並みで知られる北谷に位置する。メイン棟(地上8階)とプレミア棟(地上7階)の2棟から構成されるが、プレミア棟最上階の「ダイヤモンドスイート」がその客室である。

ワンフロア1室のみある特別な客室で、テラスを含めると373.3㎡と沖縄トッ



プクラスの客室面積を誇る。ホテル全体としては、白を基調としたモダンでシンプルなインテリア。地下1,400mから汲み上げた天然温泉スパやインフィニティプールなど、リゾートの非日常時間に溢れるホテルだ。

ダイヤモンドスイートの監修に際して打ち出したテーマは「ホテル業界初」「沖縄最大級」「唯一無二」の体験追求、そしてゲストの「選択肢」である。広大な客室でのエンタメというポイントとして、ホテル客室のテレビとして規格外の100インチを設置(横220.3cm・縦123.9cm)、シアターにいるかのような映像体験を実現できるが、さらにメゾネット上階の寝室のテレビ設置、また防水ポータブルテレビも導入し、バルコニー、プライベートプール、バスルーム、ソファなど好きな場所でのエンタメも可能にした。

ホテルに宿泊した際に枕が合わないといった経験も見聞きするが、快眠アイテムとして3種類の枕を客室でセレクトできる仕掛けを導入した。ロビーで枕を選ぶサービスはよく見かけるようになったが、ストレスなくリラックスしながら枕やブランケットなどもセレクト、ゲスト各々の体型、眠りのスタイルに合わせた寝心地のカスタマイズとでも言おうか。こちらには以前ホテル評論家監修として発

売された枕も導入した。

枕同様に客室のアメニティ類も合う合わないかは重要だ。特にシャンプーやボディソープなど、ホテルのブランドスタンダードとしても重視されるアイテムにして、チェックイン後の客室で合わないというのはゲストの被るある種悲劇でもある。換言するとホテルの押しつけとも表せる。そこで、選択肢というテーマからも過去のホテルアメニティ体験からセレクトした3ブランドのアメニティを客室に導入した。また、ヘアケアという点では、取り換え可能な2種類のシャワーヘッドを設置。高水質かつ癒しの水流を選ぶ至福のシャワータイムが実現できる。また、従前よりレジャーホテルではスタンダードなサービスだったが複数のドライヤーも設置、これは一般ホテルでは特異な前例となった。

デザートにも選ぶ楽しみをと沖縄で人気のアイスクリーム「ブルーシールアイス」その数なんと36個の詰め合わせを提供、その他、既存のコーヒーマーカーとは別にネスプレッソを設置し36個のカートリッジも用意した。アイスクリームもコーヒーマー好みのフレーバーをセレクトできるまさに選択肢である。その他、デザイン性の高いマッサージチェア、ワークーションにも資するハイエンドなデス

クチェアなども導入、多様ライフスタイルのゲストそれぞれがストレスなく滞在できる多くの選択肢具現とも自負する。

ダイヤモンドスイートには開放感あふれる贅沢な屋外スペース、バルコニーエリアもあるが、既に4名でもゆったりくつろげるサイズのバレルサウナが設置されていたところ、サウナファンにとって欠かさない水風呂問題があった。プライベートなインフィニティプールもあり一見水風呂代わりとも思えるが、夏場には水温が25℃を超えるため実用的ではなかった。そこで、新たに折りたたみ式の一人用バスタブを用意し、十分な水を安定して供給できる業務用製氷機を設置。最大量の氷で8℃低下を実現できるようになった。

まだまだ多くのポイントはあるが、そろそろ誌面のスペースも尽きてきたのでまた別の機会に紹介できればと思う。ホテル業界初・沖縄最大級・唯一無二そして選択肢というテーマを追求してきたが、監修者の突拍子な提案にもお付き合いいただいた運営会社、ホスピタリティマインド溢れるホテルスタッフの協力なくしては実現できなかったことは言うまでもない。

レクー沖縄北谷スパ & リゾート

沖縄県中頭郡北谷町美浜34-2